

令和４年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松友会	代表者	理事長 上田 慎子	法人・事業所の特徴	・法人グループ内で、グループホーム、特別養護老人ホーム等入所施設があり、また居宅介護支援事業所、デイ、ショート等居宅系事業所もあり、総合的・継続的なサービスが提供できます。 ・事業所名である「オハナ」にはハワイ語で家族という意味があります。お互いに助け合うことをいとわない親しい友人や仲間のこともオハナと呼ぶことがあります。そうした関係性を大事にし、顔なじみのスタッフがご利用者個々のニーズに沿って柔軟な対応を行い、ご自宅、地域での生活をご支援します。また食事は施設内厨房で手作りし、季節にあった料理を提供しています。
事業所名	ピースフルライフ オハナ	管理者	柿澤 隆徳		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	2 人	0 人	1 人	1 人	0 人	2 人	人	8 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	施設内研修及び、外部研修の情報収集、及び計画を立て、職員一人一人が質の向上に取り組めるようにする。研修の内容はスタッフ全員にフィードバックできるように、スタッフ会議や研修報告会を通して共有していく。	新型コロナウイルス感染症の影響や研修会が、リモート開催のものが多く、パソコンなどの機器の関係上、計画していた研修に参加する事が難しかった。	コロナが落ち着き、外部研修に参加できるようになると良いと思います。	WEB、リモートの研修にも参加できる環境を整える。感染状況を考慮しながら外部研修にも参加していく。「接遇」「ケアマネジメント」「レクリエーション」「重度者の介護方法」「医療対応」などの研修に参加していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	新型コロナウイルスをはじめとし、各感染症対策は継続する。業務で使用する書類、レク用品、その他介護用品など、ご利用者が使用するスペースにおいてある物の整理整頓、外部の方が見ても清潔感のある事業所にする。	感染症の対策、トイレ・排泄に関する後始末など、事業所の清潔保持に関する取り組みができていた。外部から見ても居心地の良い事業所を意識し、片付けなどができていた。	いつもきれいにされていると思います。ご利用者も気持ちよく過ごしているのではないのでしょうか。	外から見える部分だけではなく、クローゼットの中の整頓、倉庫バックヤードなどの整頓を心掛け、ご利用者、スタッフ、来訪者が気持ちよく過ごせる環境を整える。感染症対策はクラスターが発生した経験を活かし、今後も継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	中部地域包括支援センターの協力により、オハナの駐車場で、地域の方々と一緒にラジオ体操を開始、継続と地域への周知を行っていく。認知症カフェをオハナで開催する事を目標に準備を進めてゆく。また地域の防災訓練への参加、オハナの防災訓練への地域の方々の参加を依頼し災害時などの協力体制を検討していく。	地域の方とのラジオ体操は、現在も継続している。今年度は自治会の防災訓練も実施され参加することができた。感染防止の観点から、オハナの防災訓練への外部からの参加や認知症カフェなど外部の方がオハナへ訪れるイベントの開催などは実施することができなかった。認知症カフェなどは実際にどのように行われているかを知らないスタッフも多く、認識不足もあった。	認知症カフェなど、イベントの案内をしますので、ぜひ参加してみてください。	新型コロナウイルスの感染状況をみながら、運営推進会議のメンバーをはじめ、地域ン方々防災訓練の見学や参加をお願いしていく。各包括支援センターが実施している認知症カフェにスタッフやご利用者を含め参加できる機会をもち、地域で行われている活動に関する知識の向上を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	板戸第2ミニサロンへの協力・参加も自治会、民生委員、包括支援センターと連携しながら行っていく。身近な地域資源の情報収集を行い、インフォーマルサービスも含め、ご利用者に提供できるようにする。	新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域活動への参加やボランティアの受け入れなどを自粛する形になり、実際にミニサロンや地域活動への参加難しく、自ら社会資源の情報収集を行うことができなかった。他地域の地域ケア会議に参加し事例検討に参加した。	特になし	運営推進会議での情報交換や地域ケア会議への参加を通して、地域の実情や問題ケース、解決方法の検討や解決に至るなどを知ることにより、社会資源の活用方法や情報を把握し、知識の向上に努める。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に参加しているメンバーとの情報共有、地域ニーズなどの把握により、事業所として地域に出向いてゆくこと、事業所を地域資源として活用していただくよう情報提供していく	運営推進会議の開催回数が減少し、書面会議での対応が多くなってしまい、参加者と直接顔を合わせて情報交換等を行う機会を持つことが難しかった。一般の方からの事業所としての認知度が低い(場所を知られていない)	書面会議では実際の様子が分からない事もあり、顔を負わせての情報交換が大切であることがわかりました。今後は対面での会議が増えると良いですね。感染症にも気をつけて下さい。	運営推進会議での情報発信だけではなく、地域活動、社会資源の活動に出向き、情報把握とともに事業所やサービス内容を地域の方に知っていただけるようにする。職能団体の研修や交流などには積極的に参加していく。
F. 事業所の防災・災害対策	避難訓練や消火・通報訓練以外に、災害時の利用者の受け入れや、業務復興・継続計画を基にした対応研修、感染症発生時を想定した研修などを実施していく。	法人との連携により、災害時のBCP(業務復興、・継続計画)を作成することができた。感染症に関しては、実際にクラスターが発生したが、ご利用者への感染を最小限にとどめることができた。	特になし	BCPを基本とした、災害発生時及び発生後の対応訓練、業務継続の訓練を法人全体で実施する。感染症対応の経験をもとに対応を振り返り、大氣的に訓練、研修を実施していく